

三島市公式 Facebook ページ
FB 三島市

市公式 Facebook ページ
でお届けしている記事から、
話題のものを掲載しています。



1月8日(日)



令和 5 年 三島市消防出初式
《市役所駐車場・大通り商店街》

三島市消防団の年頭行事である「三島市消防出初式」が実施されました。式典の後には、大通り商店街にて三島市消防団、富士山南東消防本部、幼年消防クラブおよび消防車のパレードが3年ぶりに実施されました。

12月28日(水)



のびる幼稚園の皆さんからの寄付
《市長応接室》

園児が家で掃除や洗濯などを手伝った際にももらったお小遣いを手づくりの貯金箱に貯め、そのお金(合計6万8,942円)を福祉の充実のために寄付していただきました。昨年度までの累計額は105万6,096円になります。

市民活動団体
応援コーナー

このコーナーは、毎月1日号で、市内で活動する皆さんの主催するイベントや会員募集を紹介するものです。掲載申込みの詳細は、市HPをご覧ください。
※掲載の申込方法が「電子申請」に変更になりました。
☎広報情報課 ☎983・2620

三島市 市民活動団体応援

4月1日号への掲載の申込みは、
2月24日(金)までに電子申請

(電子申請をご利用いただけない場合は、
申込用紙を広報情報課 FAX 983・2719)

◀詳細はこちら ▶電子申請はこちら

※申込方法が「電子申請」になりました。

アンバーサリーコンサート
みどりの音手紙 Vol. 4

☎4月23日(日)開場：午後3時45分、開演：午後4時30分
☎市民文化会館・大ホール
市内に在住の音楽家「たなかみどり」とバンドによるコンサート
☎一般4,000円、4歳～中学生1,500円※全席指定。
やまがた楽器店、市民文化会館でチケット販売
☎みどり音楽工房 ☎・FAX 988・4140

船の学校 国立清水海上技術短期大学校
Web 学校説明会

☎3月24日(金)▶午前10時～11時40分予定
▶午後2時～3時40分予定
☎オンライン(ZOOM)☎内航船員を養成する国土交通省所管の学校です。卒業後は、貨物船、旅客船、官庁船など多岐にわたり活躍の場があります。
☎無料☎高校生以上☎事前に送付した資料☎
☎3月16日(日)午後5時までに国立清水海上技術短期大学校・教務課 ☎054・334・0922、または国立清水海上技術短期大学校HPのオープンキャンパスより

文化
第71回新春書道展

☎2月17日(金)～19日(日)午前10時～午後5時
(17日(金)は午後1時から、19日(日)は午後4時まで)
☎生涯学習センター3階・市民ギャラリー
☎児童・生徒は冬休みの宿題の書き初めを書く。高校生以上は自由課題の書き初め。仮巻に表装して展示
☎新興岳南書作家協会・久保田 ☎950・9388

その他
三島市五十雀山歩会 新会員募集

☎毎月1回(原則月末日曜日)午前7時～午後5時
☎初・中・上級のコースがあり、年1回宿泊の特別山行をします。月に1回、下見登山・安全確認をして登山案内書を作成しています
☎▶年会費：2,000円▶参加費実費：4,000円程度
☎成年男女 ☎☎古田 ☎973・1435
※詳細は三島市五十雀山歩会HP

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、掲載した事業を中止・延期または内容変更する場合があります。

歴ゆみ小箱

No.416

富士を詠む俳人

瀧の本連水

郷土資料館で開催予定の企画展にちなみ、今回はある俳人を紹介します。

戦乱の世が終わり安定的な世の中になった江戸時代は、経済が発展し、さまざまな文化が庶民にも広がった時代です。現在の三島市域は、江戸時代には、東海道の宿場町として栄えた三島宿とその周辺に広がる豊かな農村地帯であり、この地でもさまざまな文化的活動が行われてきた。そのうちのひとつが俳諧です。

俳諧とは、連歌（複数人で歌をつなげて詠んでいく文芸）から派生した文芸で、滑稽さやおかしみのあるものを指した「俳諧連歌」が、江戸時代に庶民にも広がり「俳諧」と呼ばれるようになったものです。元々は連歌と同じく複数人でつなげていくものでしたが、次第に「発句」と呼ばれる最初の「五七五」が独立していきました。この発句

を「俳句」として確立したのが、明治時代の正岡子規です。江戸時代から明治にかけて、ここ三島にも俳諧で名をはせる人物が生まれました。そのうちの一人が瀧の本連水です。

連水は本名を勝俣猶右衛門といい、天保三年（一八三二）に佐野村（現在の三島市佐野）で代々名主をつとめた家に生まれました。連水も家を継ぎ、名主をつとめています。勝俣家は大変な蔵書家で、現在勝俣文庫（当館蔵）として伝わっているその蔵書は、江戸時代に個人が収集した蔵書としては屈指の規模を誇ると注目されています。その内容は古典文学や歴史書、当時の流行の小説など多岐にわたり、このような幅広い読書歴が、連水の創作活動の源の一つとなったのかもしれない。

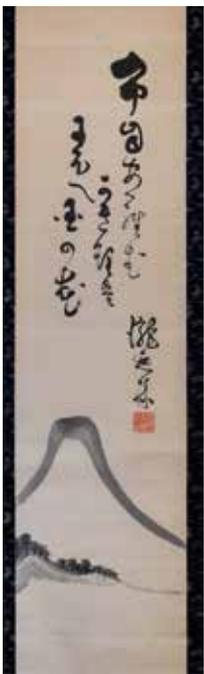
連水がいつから俳諧の道に進んだのかははっきりしていませんが、若いころに当時江戸で大

成していた三島出身の俳人・孤山堂卓郎に師事し、後に沼津の種玉庵連山に入門しました。連山は、（東海道を旅する俳人が立ち寄る）俳諧の閑所を意味する「俳閑」を自称していました。晩年「俳閑」の額を連水にゆずり、自分の後継としました。

連水の門人帳には、駿河・伊豆を中心に、遠く相模や信濃の門人も名を連ねており、連水の旺盛な指導ぶりがうかがえます。

連水は富士山をモチーフとした句を多く詠みました。明治二十六年（一八九三）には、富士山を詠んだ句だけを百句収録した『雲霧集』を出版しています。

写真は、今回展示するうちのひとつで、「ふじあらむ かきりにはほへ 国の花」という一句に、富士山の絵が添えられています。シンプルながら力強い筆運びで、富士山の雄大さを感じられる作品です。



▲瀧の本連水掛軸
(関守敏氏蔵)

わたしのおじいちゃん

当番 わたなべ かのさん

私のおじいちゃんは、家の近くの畑で野菜や果物を育てています。私に知らない野菜も作ってくれるので、四角豆やツルムラサキなど、いろいろな野菜が食べられるようになりました。

また、季節ごとにたくさんのお花も育てて通る人を楽しませてくれます。他にもブランコやび箱、バスケットゴールも作ってくれました。スマホ操作は苦手ですが、とても器用なおじいちゃんです。

次は何を作ってくれるか楽しみです！いつまでも元気です！



小林正雄（76才）
渡辺花乃（長伏小6年）